

## 第2調節池をねぐらとするチュウヒに関する調査結果及び意見

### 目 次

1. 調査目的 .....	1
2. 調査方法 .....	1
3. 調査結果 .....	1
4. 繁殖に関して .....	3



## 1. 調査目的

この調査は、第5回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会において提示された第2調節地の湿地再生に伴う掘削工事の再開に際し、第2調節地をねぐらとするチュウヒの利用状況を調査し、工事に伴うねぐらに及ぼす影響を考察するためのものです。

第2調節地の猛禽の利用状況は、多種の猛禽類が生息していた過去がありましたが、ここ数年は利用度が著しく減少しています。原因はヨシ焼きによる樹林の喪失・衰退、ヨシ利用の減少による狩場の喪失、カメラマン等による人圧にあると考えられます。ここをねぐらとするチュウヒは元々少数でしたが、更に減少しています。

## 2. 調査方法

調査方法は、定点を樹林等で遠望できない範囲を少なくするため、4定点を設け、双眼鏡とフィールドスコープを併用しました。チュウヒは特定の場所をねぐらとする習性があり、また天候・季節の移行を考え、調査日を変えて行ない、4定点の同時調査は行ないませんでした。

その他、補足調査として第1調節地内の既知のねぐらの利用個体数を調査しました。  
なお、調査時間は、15時から日没（見えなくなるまで）としました。

## 3. 調査結果

### ■定点1（タカ見台）11月30日 15時～16時50分 曇り 北の風弱 9度C

16時08分 第2調節地北西方向にチュウヒ1羽低空で出現、直飛して降下。調査終了時まで飛立ち無し。  
ねぐら入りしたものと考えられる。（図1参照）

その他の猛禽として、ミサゴ2羽、トビ約50羽、ノスリ2羽、オオタカ1羽、ハイイロチュウヒ（オス）1羽、コチョウゲンボウ2羽。

### ■定点2（第2水門北側堤防上）12月4日 15時～17時 晴 南南西の風弱 9度C

チュウヒの出現なし。

その他の猛禽として、ミサゴ1羽、トビ約50羽。

### ■定点3（生井の堤防上）12月7日 15時～16時50分 晴 北西風やや強 10度C。

チュウヒの出現なし。

その他の猛禽として、ミサゴ2羽、トビ約100羽、ノスリ1羽。

### ■定点4（与良川水門西側堤防上）12月18日 15時～16時40分 曇り 北の風弱 13度C

調査開始時、第2調節地北西部の堆積した枯れ草の上にチュウヒがパーチしているのを発見。16時14分にパーチアウト。第1調節地横断道北方向に飛去。（図1参照）

その他の猛禽として、ミサゴ1羽、トビ約200羽、ノスリ1羽、ハイイロチュウヒ（メス）2羽。

### ■補足調査（ゴルフ場付近の道路上）12月15日 15時～16時50分 曇り 北の風弱

15時45分 東北東方向からばらばらに5羽のチュウヒが飛来。ゴルフ場際の植栽にパーチ。16時以降に、三々五々にチュウヒ飛来、ねぐら上空を帆翔旋回。40羽を数えたが、うち5羽は南方向に飛去、ここをねぐらとしたものとして、35羽の確認となった。

なお、飛来方向は多数が北東方向で、高空を飛来するものもあったが、多数は50メートル前後の高度で飛来し、低空で飛来するものは少なかった。チュウヒは通常低空を飛行していることが多いことから、日中を過ごす狩場等が比較的遠方であることを示唆しているものと考えられます。（図2参照）

なお、11月22日、渡良瀬遊水地野鳥観察会会員が38羽のチュウヒのねぐら入りを確認しています。

以上第2調節地で行った4回の、チュウヒがねぐらを求める時間帯に行なった調査により、1回当たりのチュウヒの出現は0.5羽、ねぐらとして利用したものは0.25羽であり、第2調節地をねぐらとして利用するチュウヒは極めて少ないことが分かりました。

ごくわずかであっても、ここを利用するチュウヒがある限り、それに影響を与えない工法などの工夫が必要であることは言うまでもありませんが、第1調節地に40羽に近いチュウヒが利用するねぐらがあり、その他未調査である小規模ねぐらの存在もありますから、1月から第2調節地で行なう湿地再生工事は、渡良瀬遊水地のチュウヒのねぐら、及び生息に大きく影響することはないと考えます。

なお、湿地再生事業は野鳥各種の新たな生息環境を創設することも目的としているから、湿地再生が完了した後、利用度が減少しているチュウヒをはじめとする猛禽の利用度が高まることを期待し、早期に工事を完了させて頂きたいと思います。

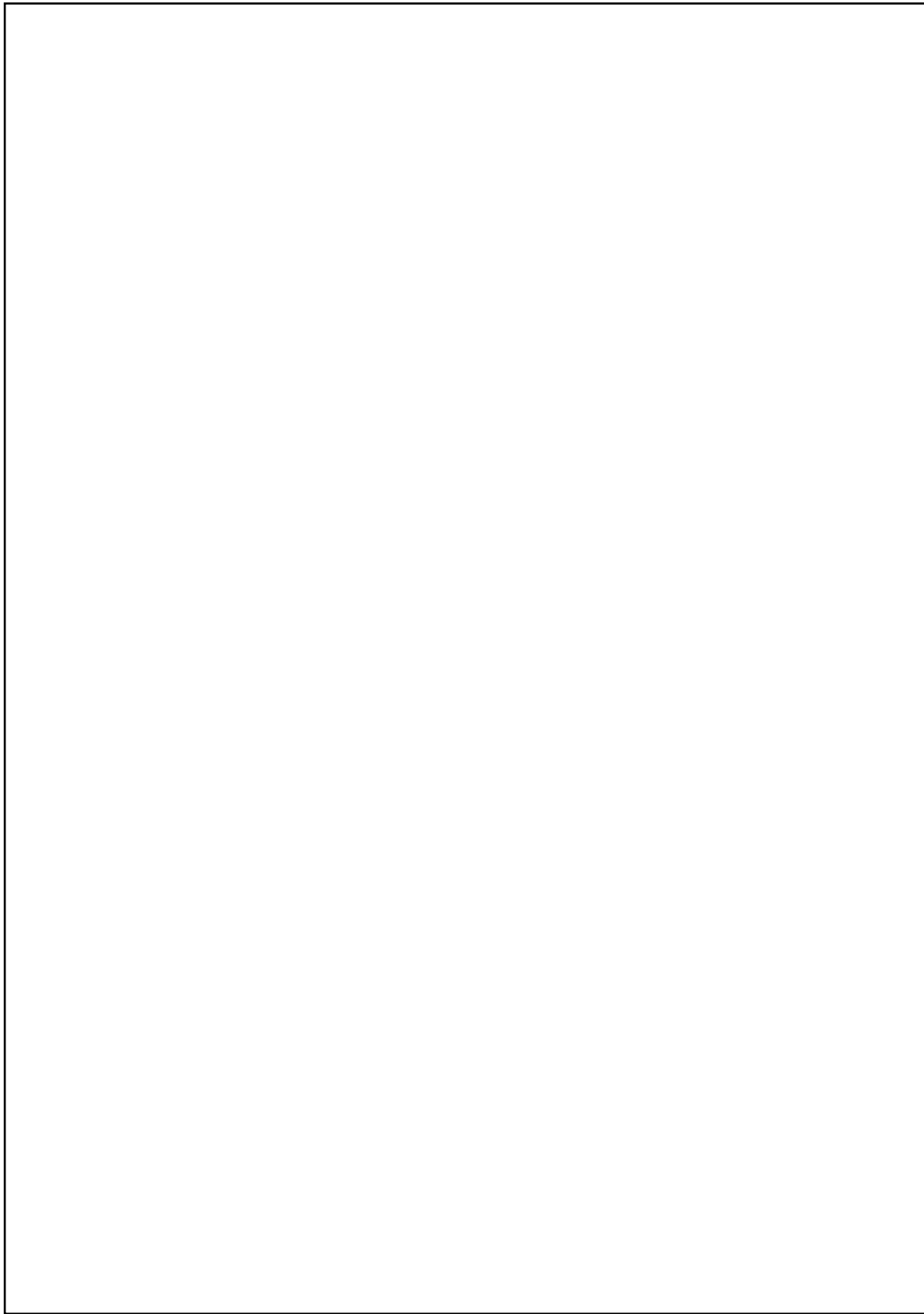


図1 チュウヒねぐら飛翔軌跡（第2調節地）

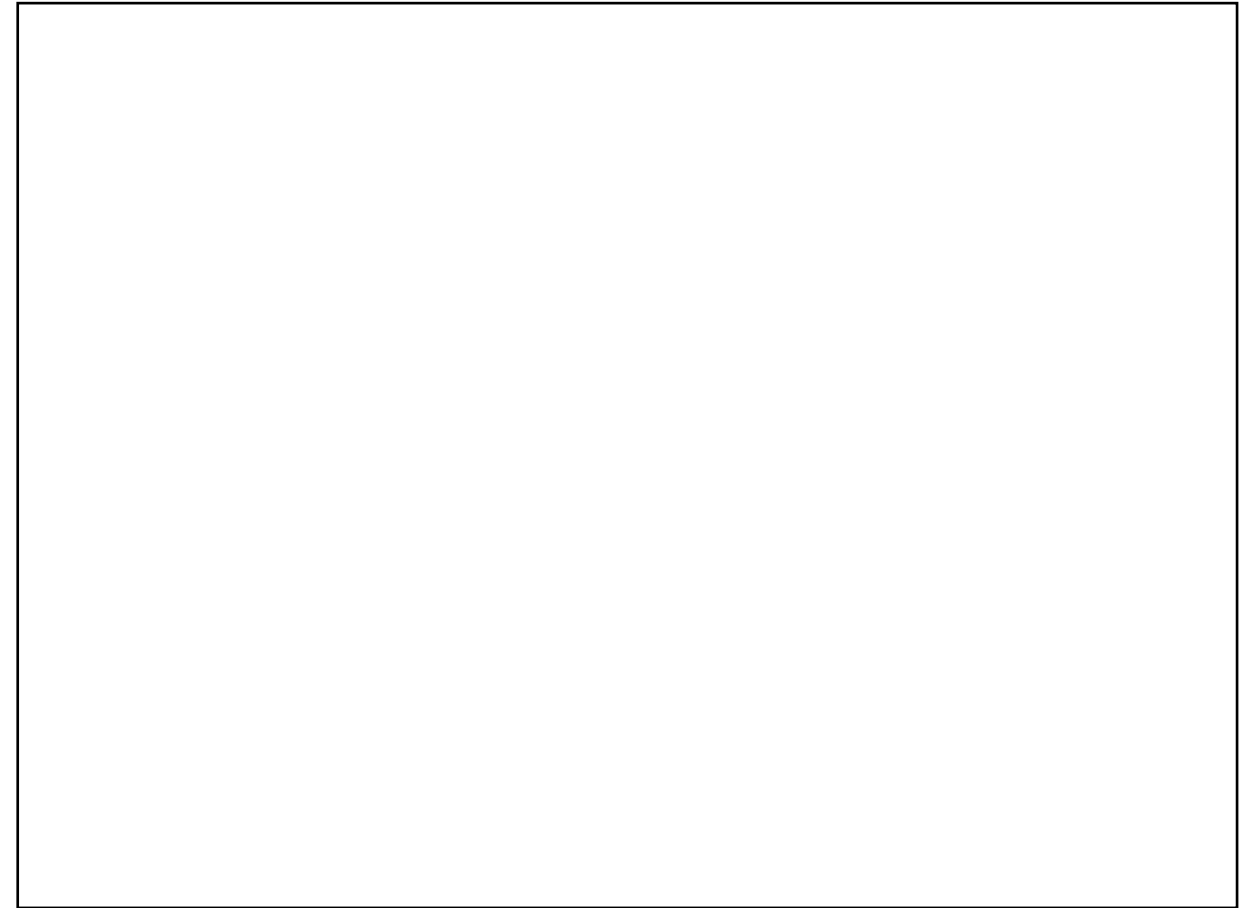


図2 チュウヒねぐら飛翔軌跡（第3調節地ゴルフ場）

---

## 4. 繁殖に関して

一般的に2月下旬頃から高度を上げて帆翔旋回をするなどのディスプレイフライトや擬似的な巣材運搬などが始まり、3月になると、つがいでのディスプレイフライトや波状飛行を頻繁に行なうようになり、空中での求愛給餌も見られることもあります。その頃から本格的な巣材運搬が始まり、4月になると雌は営巣地に留まることが多くなります。産卵は4月下旬以降が多いようです。

巣は地上に作りますが、1シーズン限りです。付近の植生は、疎らなヨシと背の低いスゲ、セタカアワダチソウ、カヤツリグサの混生した場所で、降雨が続くと滞水するが普段は乾燥しているところが多いようです。

一昨年の第2調節地での営巣地は疎らなヨシとスゲの混生地帯でした。巣材運搬は2月21日に確認されていますが、確認者の話では、作りかけの巣を一度、放棄しているそうです。よくあることですが、メスの気を引くため、オスが擬似的に巣材運搬などをすることがありますので、この巣材運搬が本物かどうかの判断は出来ません。したがって、ここでの造巣活動を、巣材運搬のあった2月下旬と判断することは拙速かと思います。もう少し遅いかもかもしれません。

また、渡良瀬遊水地でも激しい雌雄のディスプレイフライトや、鳴き交わしを見ることがありますが、4月下旬になると繁殖地に向けて飛去してしまうことが再三ありました。

神栖市の繁殖地では2・3月頃になると数組のつがいが上空でディスプレイフライトを行なうようになり、その内の1～2組が残って繁殖しています。

渡良瀬遊水地のチュウヒの生息密度は低いと思います。繁殖には一定以上の密度の高さが必需なのかもしれません。

2月から、定期的に繁殖調査を行なう予定です。